報讐十八公栄

208
141

帝國圖書館藏

国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141

ガラス使用

報讐十八公栄

一

208
141

国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141

ガラス使用

ある人余に謂て曰聞足下の事に
書ハ後世いふ所の謬解して
画は語録を多く残されしは
後ちさく商人の見て頗わろくハ
是は汝らか物語をよみて見れは
たゞひとよをとらふ足ふこれは俗を

嗚呼老いのしわの寄るやうによる
まもあれ豆腐のかくる身をも学び
しりまへおうくの古偶人にひとしき
お盲聾紙く著述の印ひなきんや
足いらぬ菜を觧して両脚の厚に
事も見甚しきいれたる富る

是をゆくれん金回是仏部し元蔵位
芳乃本の紙ガ大ゐ文人古事のふる所よ
からく寺児女子の見ん挫ひあれハ文哉
通せんをもまくのうハ手を見さうとしてならん
まくのうハひらうひもまくのくへ文字らひ
まくのうハそれしら衛ともましハ衛ども

国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141
ガラス使用

濱のまさごのかずハいくらもあれども
盡ざれバ浜のまさごと著の黄表紙
いさゝかもいふ作るはなんぞされハ足らい
の異見もからのはし水ハ方角の名
地本書舗の需に応じてさかさまへ也

丙寅孟春

報讐十八公栄目録

山塚宅八悪行多端

宅八猿汁合挿寸離縁

定木父子横死

浅香宅八被斬殺

天明二士討山塚

国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141

ガラス使用

山城ハ悪所繁昌

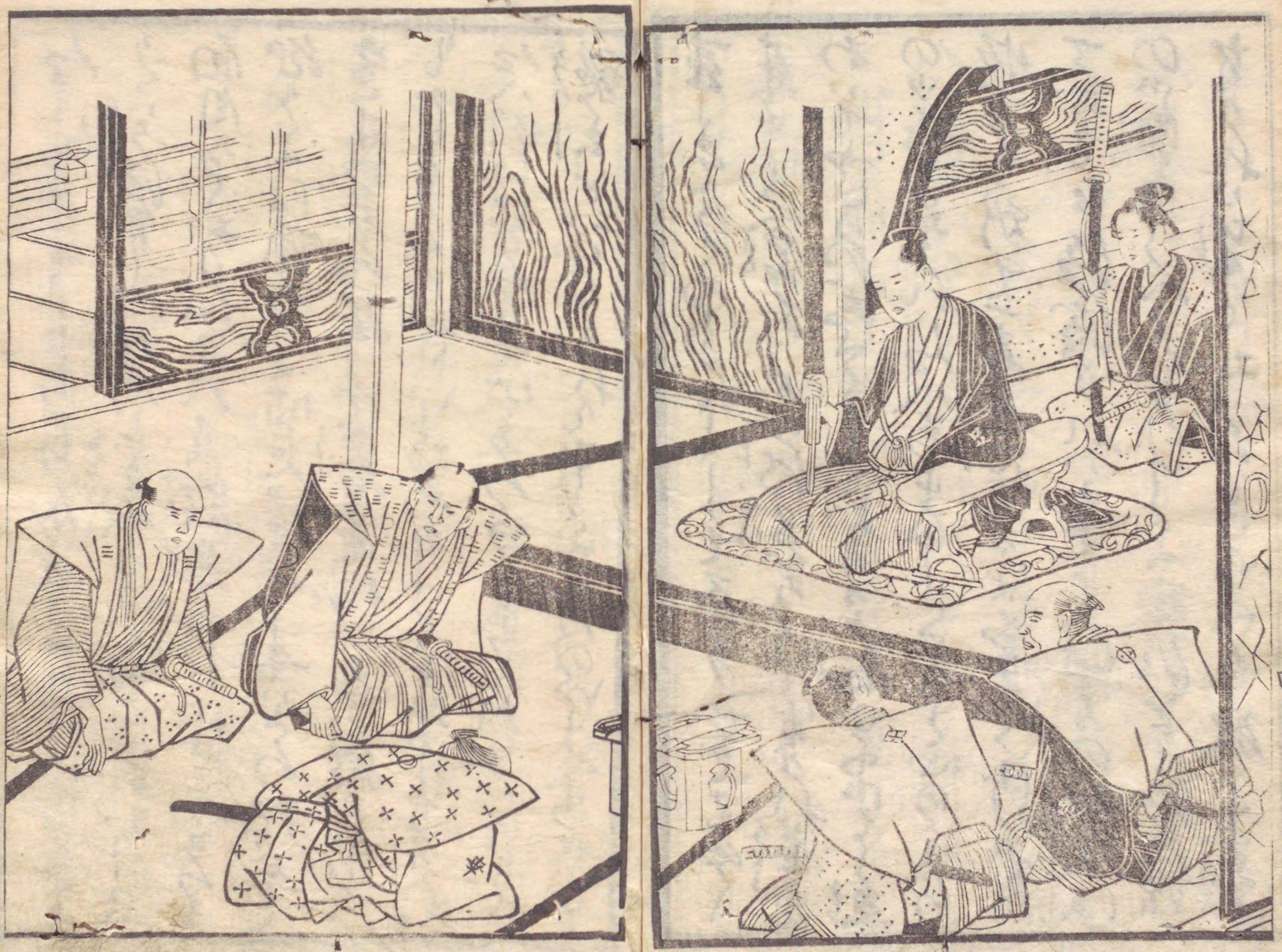
此川の流より首尾八足利家の家中に山城ハ全て
往来をとる繁栄いろん粧紫の悪者ありけれ又を
無双をと周旋をつとめたるが此子の後をとる子
けたらぬ全ての好きなく大しきをして拝所
にあひ角く家中の至る迄君かふ事に近くなで
随分あしらけ行大そうに金をはりあはせたる
口へ一家中こそなくてうれをまでとるはつ財

拝所の割合と倅息子大きに腹立して各
ふあんなるはゆへつれしきよ割合を立せとハ何
心得ども口倅ちくハ親ごころくいろく
中に迄ろうたし勘気いさんと云へれバ諸く遊惑
あらし史なをまをあしたる又内家中に室木
豊なるとて当流を勧見ハ重苑背ハ西経節と
云る男子弐人持てり重なる修行をつとめたる
孫に亜あらさの下女迄てよくござよくつまる

国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141
ガラス使用

かの者ハ六郎中の元やしきへ入るが口へハうれしき心を
うけられたる身にさうざされバさんハ主人金重蔵にくれ候に
てもうけし色へ六郎にさしつるんところく口ろよ重
蔵に空をおさまんとたくさるあつしき二十沢殿
八州の出ものよしかれバ口へ金蔵方へ行ゆき
七州の出作ものこゝろをかねてしやむく首しとや
おきて帰りける色へ重蔵ハおとそかに知れてゆくと
して首られハ口八うけきうりこれハいら於

真にそうく四くとして居かぶぞえゆく
来りまへ三んおの分出得まら名ありと云れハ重蔵
おいてやさめにあくしてかけるが殿そのにて出ろ立
の出所にあれハ口八悉出合しきりと心のうち
悦びの新て一万石もとるよ重蔵法院へ
引含に金僕られハ定てさらの法則
の出所をとうへと於ひくよ物語と云族館
首られハ皆くおもろきけくり殿にも善



国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141

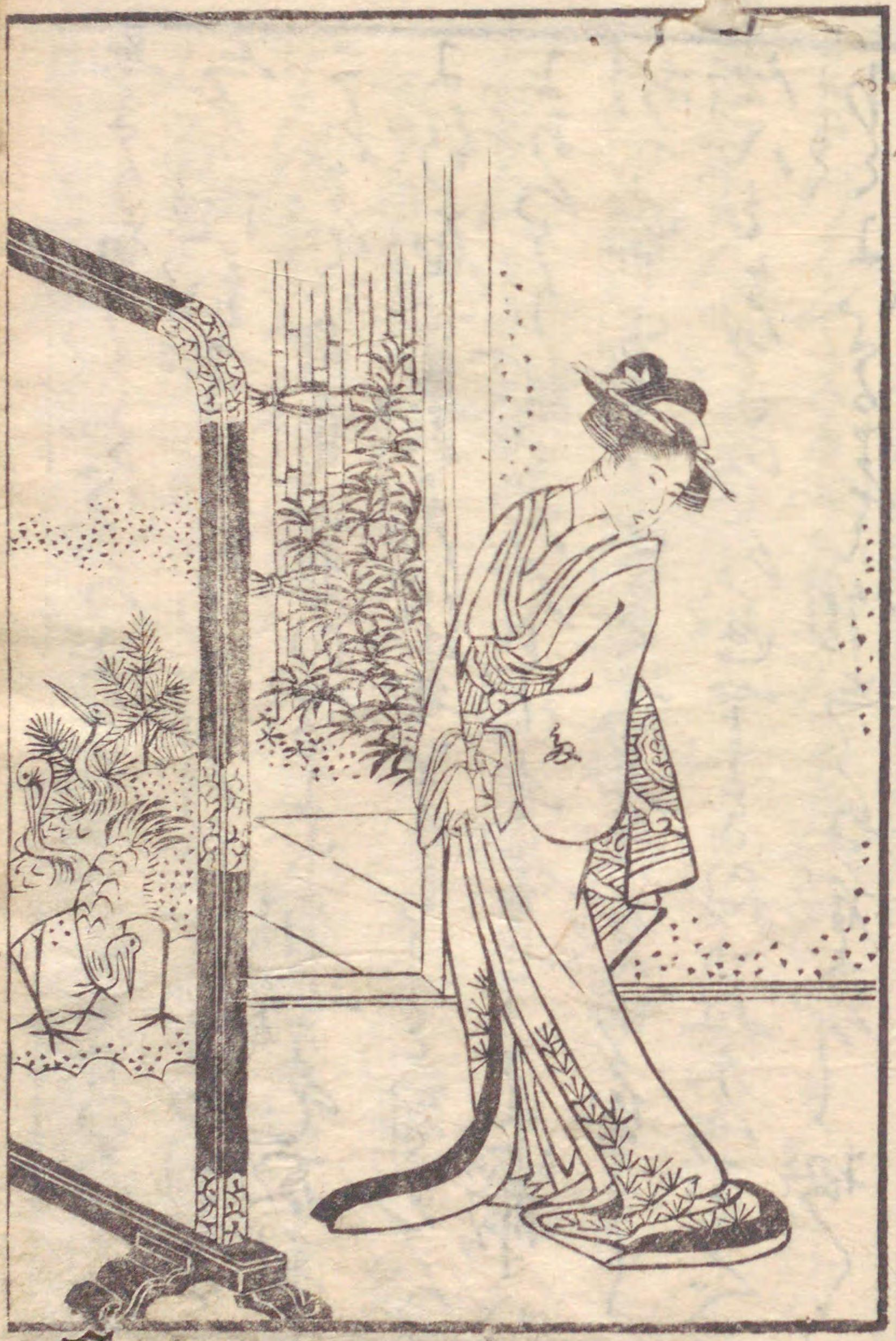
ガラス使用

仁八が狢汁ふらふらめしゆかまてござと
くいが旅籠に仁八ハ悪蔵とせんとさんかりしに
両国ちくおもひられた粒悪ハ止ざりける
然るに回藩中に明見せ辛が妻ハさゞなみと云て
容本西方の姪にて容色他にこえ類ひなく
も出しかりきハいとむつしくぞ言しければ
仁八例の好色にてむらむらときざしみけんし時く
艶書をおくりけれどさらに一向のいらへもせざ
かひなりをてりけれハせまに辛蔵と見合せ仁八
まてぬりひのとけとつれかれたさしようにうす
さぐもされハむげにせまにそらせ主人にも口
惜しくいひもして早々立のきとぞ走りける

仁八隠斗令嬢すと鬮銀
斯て仁八ハ行方しれず居られける或日
所ゝ友あまた集りて酒宴昔と此の足蒼

鈍に贋物と云へる勧申し彼節にはる
あり皆く諸人のおくりう亦是をかへ八濃市
に柳の楽しく亦まゐれバりんや吉様に八
雲の内じあどく例のやく大言月謂して
ゆりける猶におか申しさ物わら皆われバ皆く
打寄とおそしとゑしきこ事に
今ちんちの人を申しにありまゝて
旅に仕しゆきとおしもりんつとそ例の

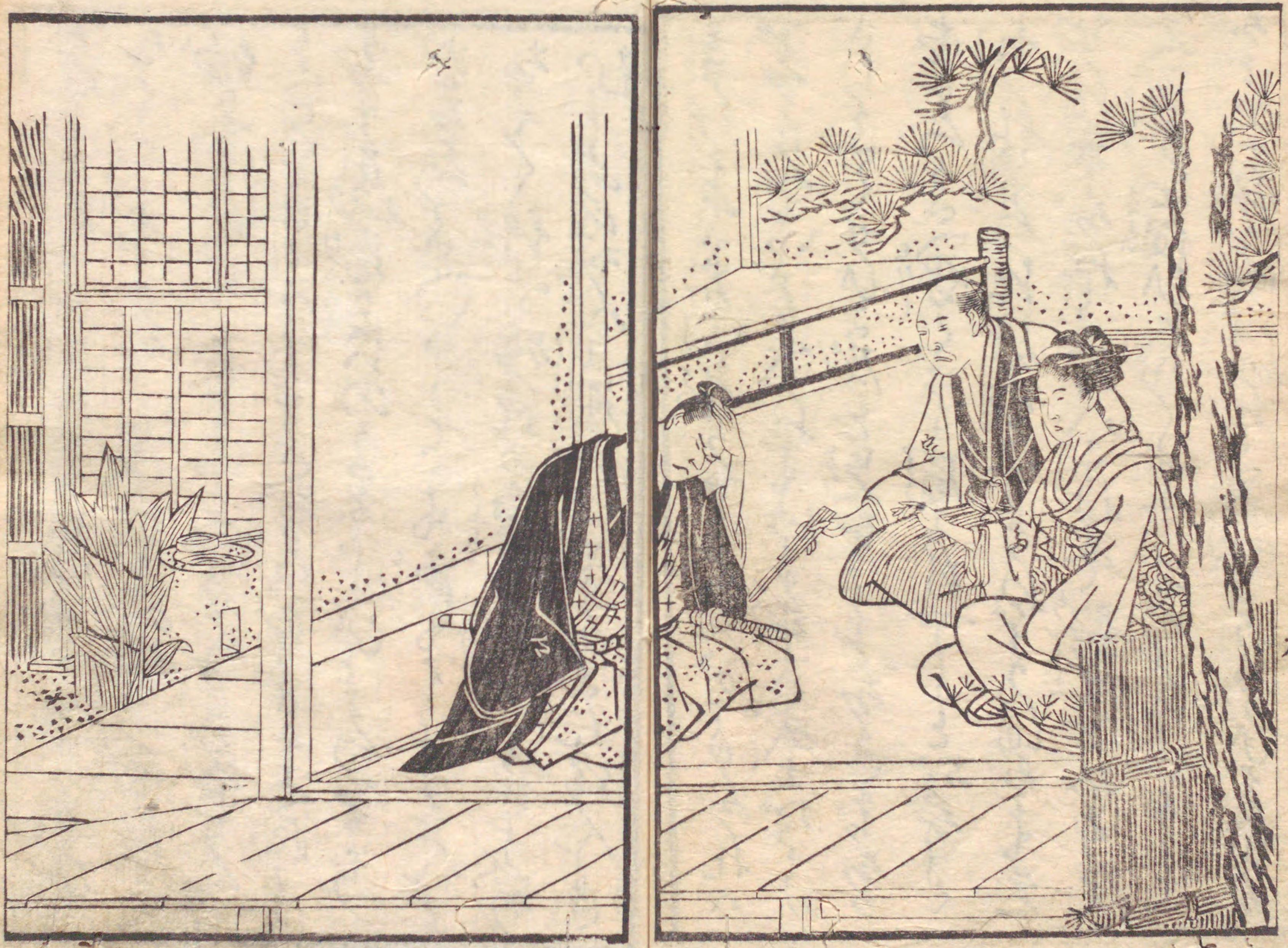
所かる志のひ多ん紙縁とすりし
ものりれハ彼く折しさくそ鷹嘴子の人
利よ寺寿ある者あるにハ年あるで秋によし
さきれバ彼妾代八ところ通ふさバふなくも
あしど聞及びさる貞女に似合ざいなしして
代八にハぶ事されさん梅く女と云物ハおさん
うかるりのうなそくおどろかれて是なよりて
誰いとそ欽く代八は年妾ところ通の盃



国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141
ガラス使用

ちぎりありしかバいろ〳〵くどく善平もこのうへハと
なり拵ふさぐく日ごろにすむところの手習
これまで八郎平の者の噂にも貞女にて万事
に行届善平ハよく恒をはらしと思ひしかん
よあづかり紙もあんじして書せしに此節ハ
おして留めおきし相違にて男に覚なきことし
仁八とふたりのころ道中にて内いぬかうかくご
なくにゐるまで淮まで者もなし扨

ことさらすなほなる心底なる者のみなれバ
あやしんでもいゝまくバりれども此さる斗ハ武士だに
をらさくせひに及ず先急おくりをちなる
あうへはるくなかへ略くこ留まけてしとおきみく
きゝれハとうにハかうかりこれがうハゆめにも見え
ならに事なれども仁八これまで数書をおくるも
又留守と伺ひ来ハゞく来りてきざしよし
あどもと一通り御しかれども又なるまひされる



国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141
ガラス使用

てんのまもあらむと是まで貞心をつくしけるかひも
なく不意に親の悪名を受けるの面目さへ
伯父の名をけがすさまをせん自害せんと
かくごときはめしがすでにおもひ出しきく郎し
ゐるのはかゞ悪名の家の事をおもひとまつておち
重ねるをいさめても角もえらうちんと
ゆきく行て婿縁の親子を夕よろこび行
むしつのちかんに落へしらすのさんねんさ

御推察あつて弟のあるりの夏びき根に出会ひ
おもづしと初きごとたまはれハ夫婦の人も大に
おどろきて御縁にあらぬ見なくバ今八公を
本家に頼みまゐらそ此度は中々とは
とにかく八とよびかくはじめたるに次第は
悪りの人をうらみちく一作のうけとげたれ
ふたたび八に命ひ思ひ思ひの通り相すぎる
自らがなんぞ去る清の我をひく思ふとあれとあ

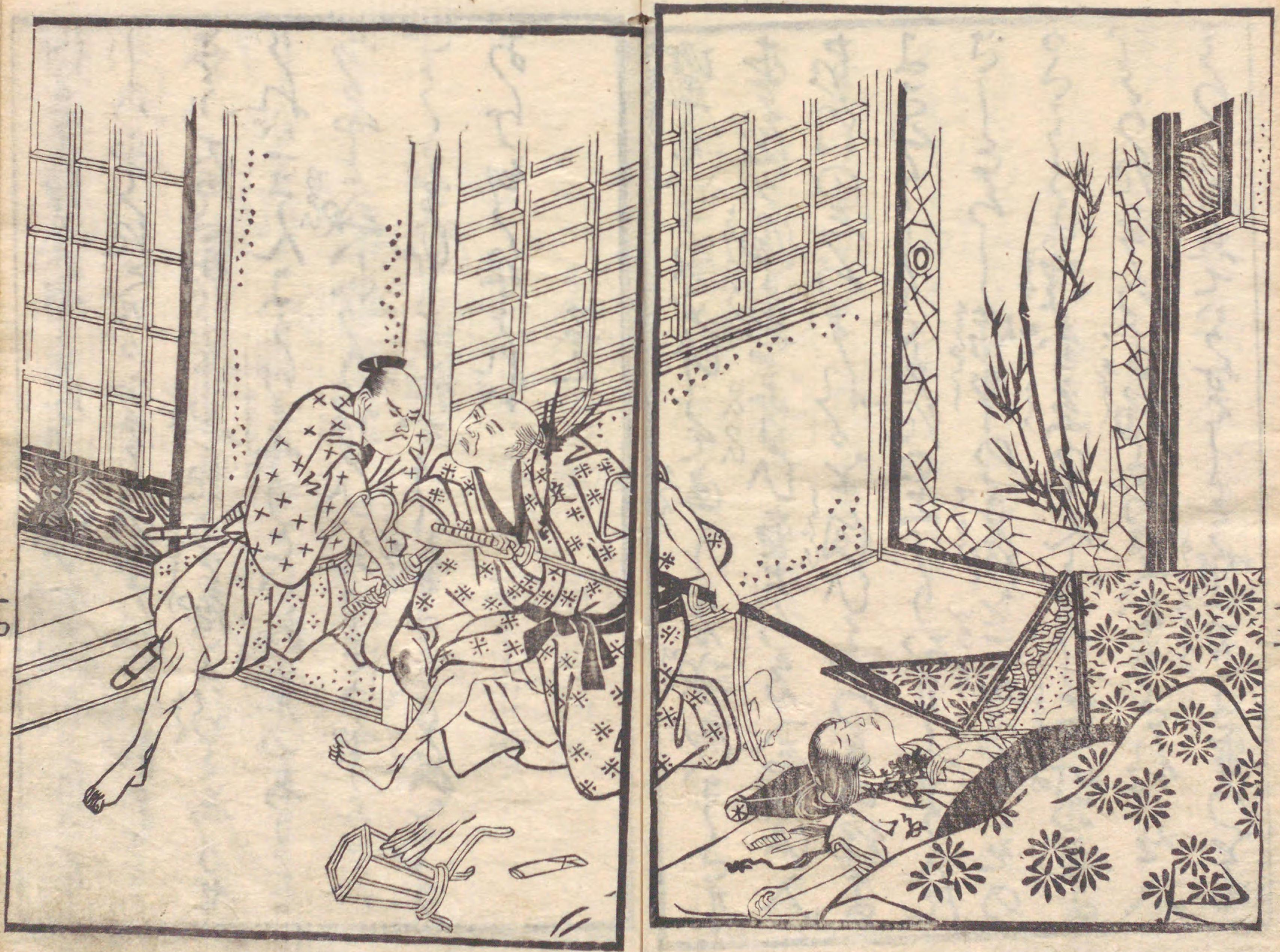
あるときいへバつきそふてうちやせしなどはそみん
留守(るす)居ながく公の心のさけをのみしがなしく
近くいるとせよのつゆのこしが謀留守の身度
くいそそれハ藤内の右衛門何とかおもひしが六
ゆしくちるの手ハおのひ上り婦人ハ御手よ
おのくれとも二世かけし夫(おつと)をまてのこて
菓子の事てひろひしの小ハ女の道にはづれぞ多く
小ほまるせしと言くも見へ逢へし此悪人の

こらん事とおそれろ未て西の高山の畠とやし
せしくぜひく身のうろゝ紙よりかりやしと首
くれバ右八も兩目なく一名のすいと出もなくて
首ゆると直てつきあハバ宿を訳まきてくる
なくバ此ろのしくまる事を出でしなく
其の在ハ云ゞげなそし人面ちくるのきひひ
ゆるを大まに天をまそびら出のれ立まと見へしと
れと言ひ合せうそく上げて海りける

定本父子横死

扨て山崎街道八丁目にて両人とも
しめられむねんとざんねんくしょも最
まるいかなる孔人の死とながめさせんも
心ぼしく何とぞ恐るゝと心うしなへと
きんと志げんと極めさあるゐ我よて出来
方へいそり彼是暗く物数ちぞとしてよ孔
其孔と見合　密きしのなりてと記そうた

盗賊ハ夜ごひして通りかゝる旅人をさして本
金を取が酒盛を持ひ立ちあ方へ忍び入
家内の者どもおれるを伺ひあつきの様ま
まさぐりよりその上よりおりかゝりし
さしころし懐中の手紙を二通ならさとその
かさなる掠奪金のうんとせし其所持当の主
おかれたるの手燭とりさくおきさればば八
ころけられてハうるそしと唯一刀に其ろとも

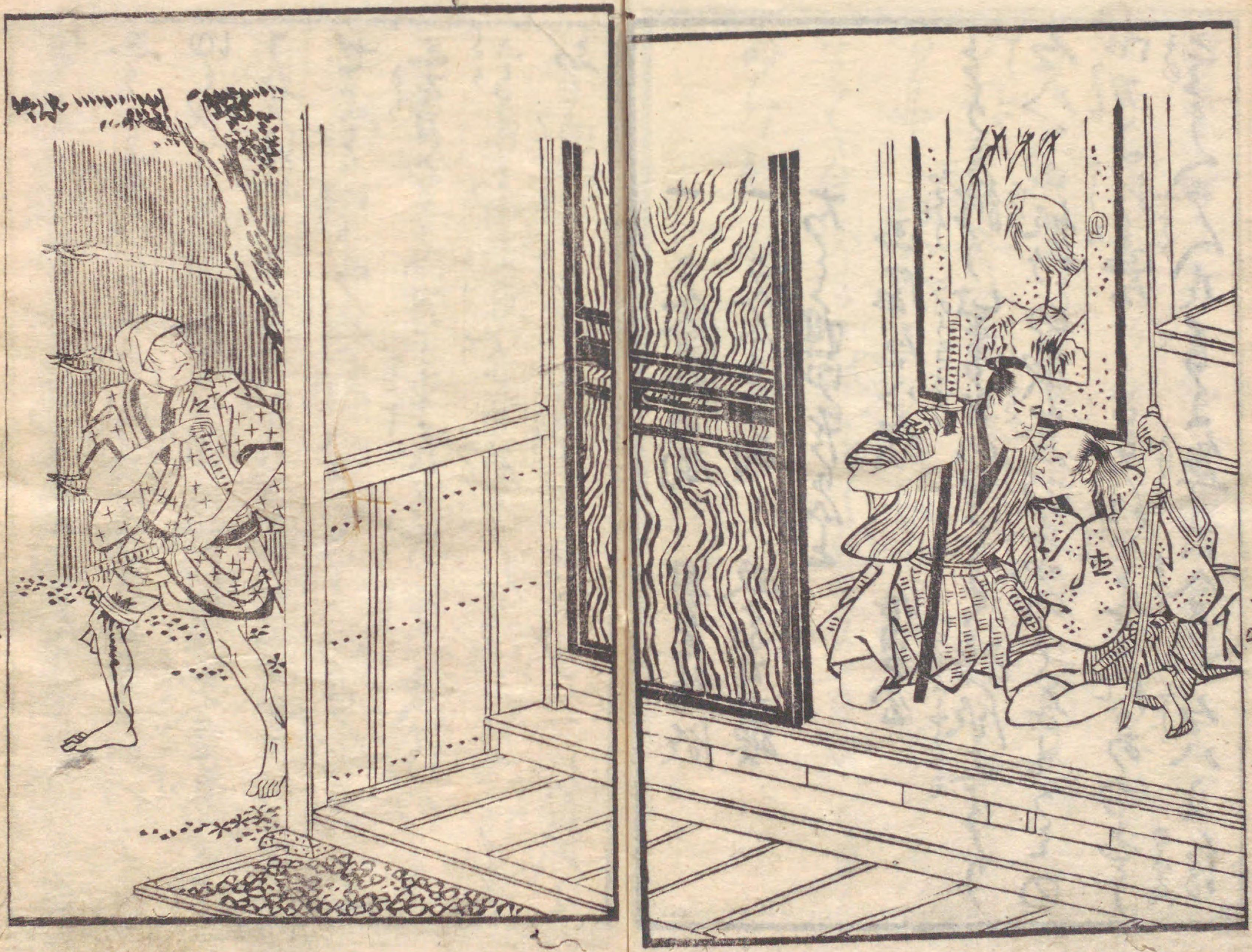


国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141
ガラス使用

けさがけにおちたりし塀(へい)乗(のり)越(こ)て立さり
しハ何とかしたりけんさればこそ頭(かしら)のそう
ごう太刀をとらんと出(いで)たるに弥太郎(やとう)に郎(らく)とさして
けれバ一さんにかけ来(きた)りて八何者(なにもの)のしわざ
なるかと詞(ことば)ハいらずかけ出ハおかきものかたの
ごとく金ひろひ取おとし書(かき)をよみてうけとり
あけ見ればなるべし

しかし

一　金子百両　　奥兵衛拾ひ
一　金子百両　　政宗小刀一腰
右之通此度受取申候
　山形治八殿　　　借主
ところが頭(おかしら)此書付(このかきつけ)の旨(むね)を具(ぐ)さに読(よみ)通(とほ)して拾(ひろ)ひ上より
治八へ右の件(くだり)の武器(ぶき)政宗(まさむね)の小刀もとより
此刀よ打ぬきさし(ね)されバこそれがあらはれ
其(その)まゝにそんなに手(て)に受(うけ)しハ全く治八に紛



国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141
ガラス使用

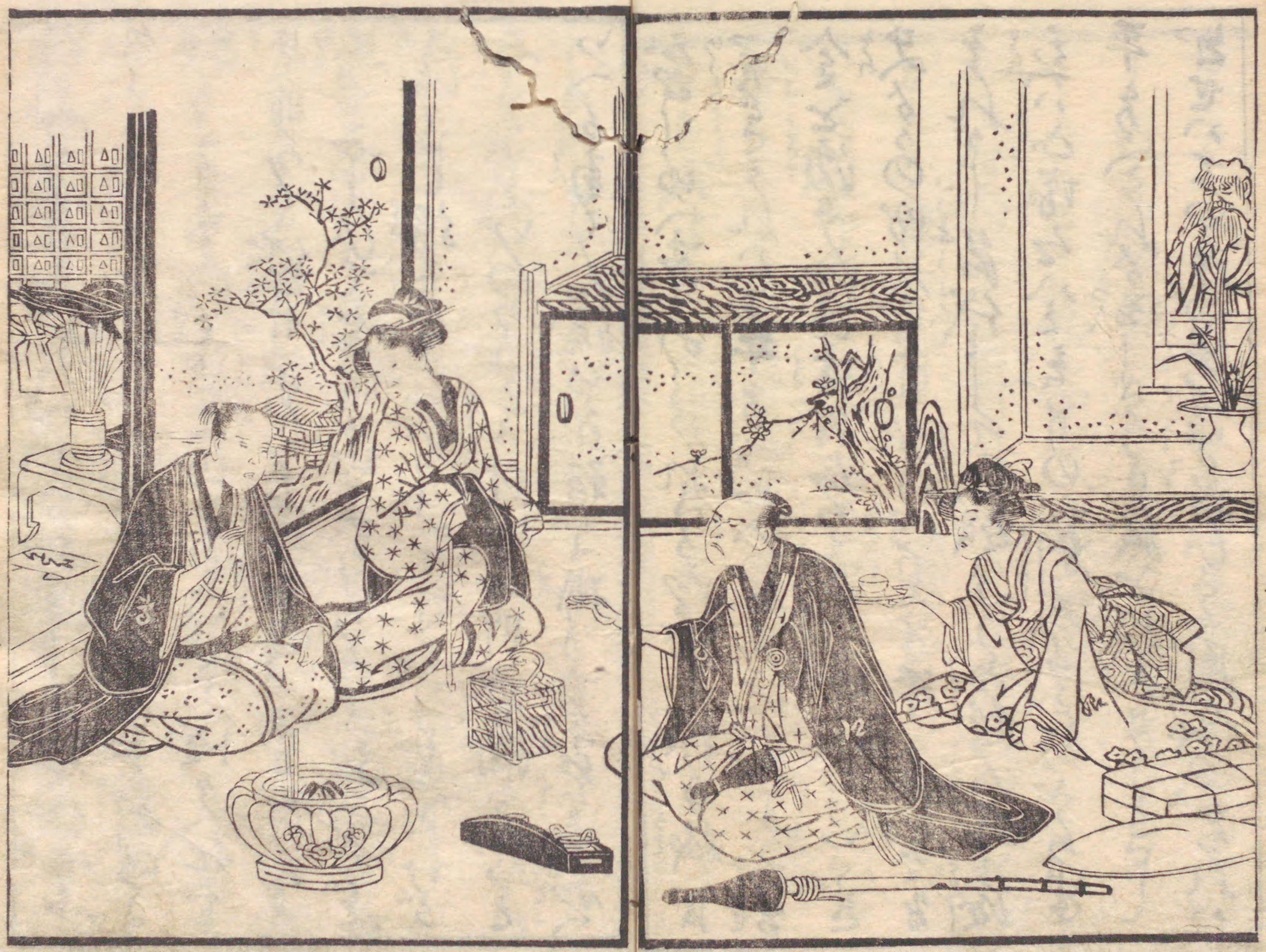
都し一刻もはやくおらんと三さんまうけ行る五郎よし八ハ書付の違ひしよハくろうづらぞゆうくと五郎よ御り振る所へ雪藏せきよせ給て若き萬りおのきこおやのうきさうくじせよと切らられバ伍八さてハとぬき合せ二太刀三太刀くうひしが雪藏らおさ刀受たがしこうりし田舎すをを肩られた事ともせざとあとめて雪藏が肩先田舎す切さげれバばつと

息てたちまち僕いづくともなくきけ失けりかくる所へ助右衛門若来り二いろよ佃り于よろひかやうえたハ必ず打とたゞまりれバ雪藏がましき命のしさ我が藏念や我初右刀く八がめぐへとりつけしがあやまつて部ふかくとうりし事の口惜さよと天よれうきさ地よらうひおしくいさいこえよりひけいらぞことなし我今一度をゆバかく世をくとハらくさ

せまじまで浦まであるどり何者のおそふなり
しれとの悲念さよと拳を握る計り也
惜哉為仁八被毒殺
扨も仁八ハ三人と殺しやすきと立出備中の父
方よ身を隠さんとおりへ在彼国のさくさくくれハ
いろハせんとふる蝶中をきめいせんまで言ふまれ
弥あしくまで首のへ大きに殺るに如ハさんぜん
くなとこうへ貸屋の書付と記述てまで

前ゆへ華あらハれるあるじと渡て所ハ
前ひさされハ平方に出入の町人何某より落
金と渡さんとの書付あるを見出しとおしていさぎ
其からの町人まで取つけ鳴見平に偏あり二年
其がし名代として正銀かぎり残るかねまでに渡し
表ハ山城の仁八と云ものの外別其のさきの半
平方へこれをよしとて殺しと相成せりとさし
出せハてがらを並に及びける周人のあれバ

国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141
ガラス使用



国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141
ガラス使用

相違もあるまじくと金子百両渡しけるに八公ハ
あるに金子をとられ又父方へ心さし別所に
掛りたるよ(が)のなるけしのきざしいとど強くなれど
是非なく袋井宿に逗留し一両日いぜんに
馬とやとひて乗しがさる方へころびさんざん踏れど
落るし継さしやむしなてふとりとけが
ありといわりはかりその後の医師行浦雪斎と
いへる南蛮流の外科に掛りて養生をなく

しがさしまでぎて八つ半じぶんしげくさき
よしあれバ千両箱とく行かりて去がたく出たれ
生きぞしらいたる継よ千両ゆせん妻ハ生まれ
かくこのむをおもを延し置一夜をいぜんよ牙抜
ありけるゆへ中居といへる後妻をむかへ下さし女
なくまで淫戯浮きその巧なれバいかとなく
八公とよのひ合らん縁をこてよせ浮き中
となりけるハあさましかりける事どもくる八

国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141
ガラス使用

国立国会図書館　報譬十八公栄 208-141

ガラス使用

かくも告しぜえ分緩よくしるなもへバり八
快楽の後も留置て同く養父さぎの相手と
なしゝれバ女ぞら大きさらきぞ悦びいふもして
おのくとやう欲を失ひ永く丹八と宣教さんを
たくるうらそゝてるれされバどく薬らし給
かしくおもへども殊ニ雨ふりさ根もなりるれバ
あ人穢く二丈を出し我丹八ちう繩よ
むくひ蘇禾生訓よありし附鬼態とらる剛力

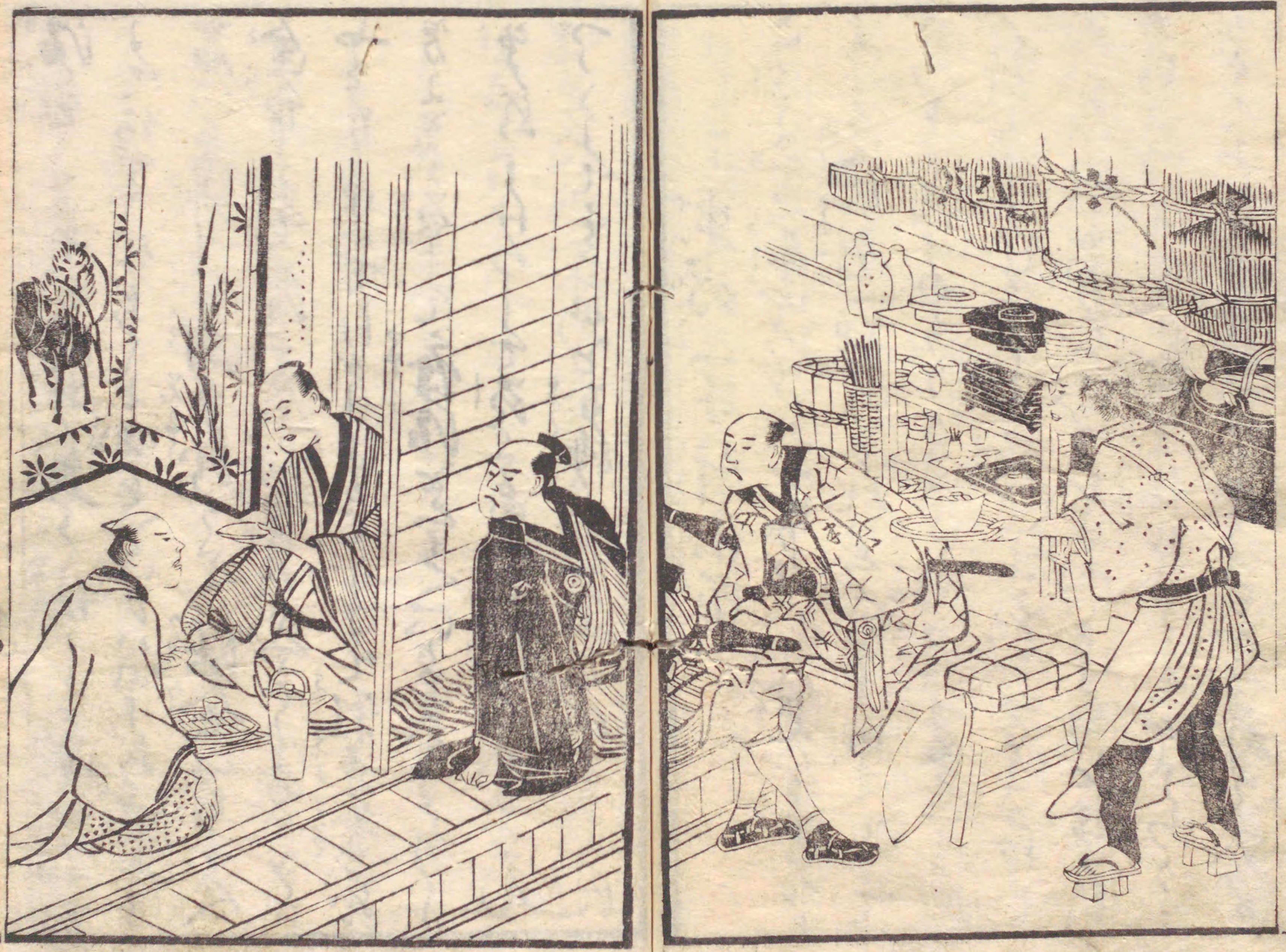
或大力にてありしが仲間の手繩を遁文
ぞくゞいは食て無身もしくさなは殺さり
し能り来らバ当然それバあらくといふ苦之
無和し与りのうれさりのバ当しと何の心なく伝
しくと去川らとお目くれもあしくゞさ本命倒く周
身しと論らまへて及右かりし於りし痛み所より
多く痛人あまし去来れバ当然バ多死ち成
して出ありなる丹八中の何八丈のあるくと被毎

弟と饗庭宗次がゆりと伝兵衛を和狐て
おさそんとらの毒の入し金ら山くとぞすゝめける
やがえ為ぞざんよみれハなにとんちく金ぶし
かるに喰もおハざてころまちちんくのく
らんして吐血なして及びこしくちうへん
ちんこしてそ党よりあまれむへし出親
いそる右館ちや吉文がる婦人のそう
毒にあたてむさんと矣もあんなく之

定明二子討山塚

うるに宗本山ひらくハ山塚文八父兄のうるさきある
よし宗康へ行うひらんれハ志ん百ゞのようまえ
ろめそくいる由かりたまきて鳴見中平もそれ
画のうざひそし女房とられをまよりけしも
文八ろれハをひんよおのひ上向ハそしらと行ひ
両ゆぐ清兵衛文八が親里僑中さして出さらる
らくてあんハ二ゐるわしぎてるのか当手術らるへあるる

国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141
ガラス使用



国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141

ガラス使用

酒屋に立寄腰折無体しが奥の一間
まで何やらいそくと咄をとげ行はしけれ袋井
君の医師行衛をたづねらく源兵衛のうへ人
途中にて落だるし眼をさやさしつゝえく
やとりて黒寸けがしぬるにぞ粉薬多粉
方よりも取して癒治を乞ふかぬるにかぶ
まゐりけるして死しぬるへの法人をしばん
づゝみて三家をお続しも年のおいに

世その娘お梅さこそて容貌も勝れたれバ
持ち右よむさんとのるゆくお嫁せんと見えけれ
しが夫よあつぜれの夷色くとうきけしを云ひぐ
ば平伊ほとひとし、或ハ云ら娘のうえや梅らん
やとりのきずとひ源兵衛のうへ人嘗ハ我
うしと夫へ道のかどこはつくもなけ 于手に無う
かるよお梅しやきるうろ母のあつ哉の味すへいれハ佐え
それ扨そういる大口わと之おもひまりせ一二と多うふ娘

国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141
ガラス使用

ともろはおしあはせなりあんハふかひ今はおもひハな
退らし狩野といへるおろし都をたてる
それハ秋ハ蘇鉄若の名ハ神江浦の言る者
の悪なるる父をおそれしまに吐血して死なれま
これ源氏のらへ人をさへしておりて打にと
なきひとおしまそくまつくにくれり
吹次の傍も後と呼ハ足沢武部中にて
人を殺しまさ父を殺とも悪業にて

これせしなしきとられとハ出で女ましくへと
まう母ものさざん母へしい者へまおりくども女の身
のいふしるさおくかゆくてま御父の為りれハ是
縁ゆんへと吹次とみられし田をそらにて
今ハまかりしふりしまいをいみま悪まれ
ちいんざいなせしよしところなに人ハいぜん酒
屋のたるすしまたぐんざんれバある口と於へ忘庭人ハ
玄とらくまさどハおしむやと思ひいりまその

国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141

ガラス使用

国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141

ガラス使用

よしや我家に又父の悪心と見へてけるや
さればとくとこゝろつくし遂ければ何とぞ
わがあとをつぎたる八くわとやかくハ限ひきつひきも
よいさとひかせば万人ともあるて思ひ
なし候ばいのちもおもいの医者の内と経
ならしよりの身にあはれ人にたびをと今へ死れハ
いまさへ逐し死めよみくと嘆ひける
姫ども別欲のかなしさにハ哀くと泣悲し

彼をとゝ也よきと云て入姫もようひ日の露くと
ゆきなく人浪々彼地にわり相ともを偲ふてし
けるや三更もすぎて今ハふと姫熱脳の
折ふあれバこのむまれ先に立今ハ福ふくいざなひ
なるハ今八ハ何もえにと云ふいつに今ハ父兄の
なりに切ひきれ切離れバ加持そりと刀ある
わりおがりかしの誇りと眉あげしめにあらせ
さらひける女房中に抱えて香合火入をとて

ありけるハいかにも眼くらみくづれぐるしみ久八
なしかたなく手すりさげ切出ふところに
英勇(ゑゆう)の久八かくしもちたるやすらんにあらんと
切出す力おやまへて打(ちやう)ちからぬ切出しくんとりく
きれと云ひければ大げさにきりつけし
ものしらずとぶりとさしせるがまゝハ女房お中
同じく夫(おつと)と毒(どく)をひしるなれバ腹この
役人まもなく御(ごらう)しん新て云けるハ又見乃

かくまさ山塚(つか)久八をとらへ是より日比の殺害(さつがい)
還(かへ)しらしへ逆り敵云上しられハ仏感心深く
明見せ年も助ケ力せしゆへ立志んひやく
のいらしくこゝをてふらうとも加増を給り
けれバ悦び限りなく又袋井(ふくろい)宿(しゆく)へ立
らの娘(むすめ)とよび合せ衛(ひ)への家正近命とめでたく
をがしと云ふ盃(あはせまきされ)すゑなかと云ひて目出度
ければ〳〵

国立国会図書館　報讐十八公栄 208-141
ガラス使用

208
141

国立国会図書館　報謇十八公栄 208-141

ガラス使用

208
141

国立国会図書館　　報讐十八公栄 208-141

ガラス使用

帝國圖書館藏

国立国会図書館　　報讐十八公栄 208-141

ガラス使用